

農林水産業と 生物多様性のかかわり



経済発展や技術開発により、人間の生活は物質的に豊かで便利になる反面、生物多様性の減少は前例のない速さで進行しており、人類が豊かに生存し続けるための基盤となる地球環境は、限界に達しつつあります。

一方、我が国の農林水産業は、農山漁村人口の著しい高齢化・減少等による農林水産業の担い手不足と、これに伴う農地面積の減少という事態に直面しています。

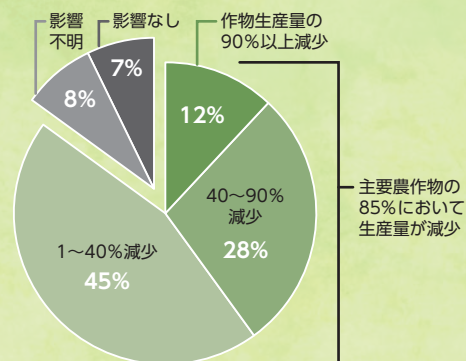
農林水産業は地球と人をつなぎ、人間の生存に必要な食料や生活資材などを供給する必要不可欠な活動です。人間による農林水産業の営みは、人々にとって身近な自然環境を形成し、多様な生物種の生育・生息に重要な役割を果たしています。また農林水産業は、気候の安定、水の浄化、受粉、天敵、土壌形成、光合成や栄養循環など、生物多様性から得られる様々な生態系サービスに支えられています。

農林水産業と生物多様性のつながりは、農山漁村の文化や景観をかたちづくり、農山漁村に活力を与え、地域経済の発展や健康的でゆとりある豊かな生活の基盤となっています。

人間が直接消費し、世界市場で取引されている 世界の主要作物の動物媒介受粉への依存度

ミツバチ等の花粉媒介者をすべて失うと、世界の主要作物(107品目)のうち85%の生産量に影響が予想される。

すべての花粉媒介者を喪失した場合の作物生産量の減少幅の推計値



出典: IPBES 2016[花粉媒介者、花粉媒介及び食料生産に関するアセスメントレポート]をもとに和訳

注) 人間が直接食用とする果実または種子を生産する作物(107品目)が対象であり、自家受粉や栄養生殖をする作物等は含まれない。

IPBESは、世界中の研究成果を基に政策提言を行う政府間組織。

正式名は「生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォーム(Intergovernmental science-policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services)」。